

討論：毛利俊雄，小川秀司，田中正之，
平井啓久

企画：田中香，松元健二

内容：本研究所は今年度より大部門制に移行し，類人猿研究をさらに充実させることになった。そこで，研究所設立の理念である人類進化の解明に，類人猿研究の果たす役割を，真正面から問題にした。

古市氏は，ボノボの性についての研究の概略にふまえて，ヒトの進化について語る可能性と，今後進めるべき研究について検討された。松沢は，山登りとのアナロジーにおいて，大型類人猿研究のパラダイムの変遷について，独自の解釈を試みた。木村は，類人猿をヒトの祖先型のモデルとして研究することが重要であると主張し，類人猿そのものの進化過程の解明が進むことに対する期待を表明した。視点の異なった3人の類人猿研究者の講演に対して，討論者を中心に，さまざまな観点からの議論がなされた。

なお，本企画は，今年度ティーチング・アシスタントの2名が担当した（参加：約50名）。
（大澤秀行：93年度カリキュラム委員会）

公開講座（第9回）

タイトルは「霊長類の進化」である。平成5年8月26日（木）・27日（金）の両日，霊長類研究所会議室において開催した。

応募者は159名，抽選により80名（定員）の受講者を決定した。参加者は71名だった。小・中・高校教員，会社員，主婦，学生と幅広く，中部，近畿，中国地方からの参加者が多かった。プログラムと演者は下記のとおりである。

総合案内	平井啓久
二足歩行の起源	木村 賛
類人猿の社会進歩	山極寿一
脳の進化	澤口俊之
霊長類とDNA	竹中 修
形態・骨学実習	高井正成
心理学実習	松沢哲郎
野外行動観察実習	加納隆至
遺伝学実習	庄武孝義

夏期セミナー（第5回）

平成5年7月15日（木）・16日（金）の両

日，霊長類研究所会議室において開催した。応募者は77名，抽選により50名（定員）の受講者を決定した。参加者は北大から琉球大まで全国22大学（応募は29大学），所属学部は文17名，理16名，農6名，その他で，合計46名だった。各分野と施設の紹介があり，一日目の夜に懇親会があった。

市民公開日（第4回）

平成5年10月24日（日）午後1時から3時30分まで，霊長類研究所において開催した。本年は，犬山市立図書館に「サル文庫」が開設された記念事業の1つとして，対象を犬山市民に広げて開催した（従来は，丸山，富岡，塔野地三地区のみを対象としていた）。三地区長に案内状配布を依頼したほか，犬山市の広報誌にも案内を掲載した。募集期間が短かったこともあり，参加者は46名だった。

プログラムは以下のとおりである。

13：15～13：30

所長代理挨拶：杉山幸丸教授

13：30～14：30

講演「ヒヒとエチオピア」 庄武孝義教授

14：30～15：30

所内見学，ビデオ上映等

（松沢哲郎：93年度広報委員会）

学位取得者と論文題目

京都大学博士（理学）

上野吉一（論文）

フサオマキザルにおける匂い知覚に関する実験的分析

友永雅己（論文）

Visual search by chimpanzees (*Pan troglodytes*):
Some comparative perception and cognition studies (チンパンジーにおける視覚探索
—その比較知覚・認知的研究—)

京都大学修士

白石陽子：マカカ属サル大脳皮質前頭連合野における特異発現遺伝子の探索

橋彌和秀：チンパンジーにおける視聴覚統合

長谷川良平：作業記憶に基づくサッカーボール運動に関するサル前頭連合野の神経機構

山越 言：野生チンパンジーの道具使用行動